

## 令和4年度 自己評価結果公表シート

令和5年5月30日 光の園幼稚園

### 1、本園の教育目標

- ・ 生きる力の基礎を養うため、健やかな身体と豊かな心情を育てる
- ・ 「勇気と感動とやさしさと」をスローガンに、お話の世界に遊び、楽しく表現し、輝くような心と感性に満ちた創造力を育む
- ・ 自分の興味関心をもったことや不思議だなと感じたことを追究する中で周りのもの・こと・ひととの関わり方を知る（令和4年度）

### ◎ 取り組みに際して念頭においていること

- ・ 五感を使って自然に親しむ
- ・ お話の世界を楽しむ
- ・ 自分の思いやイメージを自由に表現する素地を作る
- ・ 人とのかかわりを大切にして人への信頼感をもつ
- ・ 子どもたちの思いやつぶやきを受け取り保育に活かす

### 2、令和4年度重点的に取り組む目標や計画

- ①子ども一人ひとりの育ちとクラスや活動の発展・経過の捉え方や育ちの方向性の教員間での共通理解を図る
- ②子どもの育ちに本当に必要な遊び・活動・行事のあり方を目の前の子どもの姿から考える
- ③保護者とも保育者間でも子どもやクラスの育ちや活動の過程が共通認識できる方法を考える

### 3、評価項目および取組状況

評価項目	取り組み状況
①子ども一人ひとりの育ちとクラスや活動の発展・経過の捉え方や育ちの方向性の教員間での共通理解を図る	保護者に向けての「あゆみ」に子どもたち一人ひとりの育ちについて書き、それを教員間でも読み合うこと、日常的に話すことでクラスに関わらず子どもたちの今の姿を共通理解することに努めた。しかし、共通理解した姿からさらにどのように育っていくのか、どのような手立てを考えていくのかという点において立ち止まってしまう傾向にある。
②子どもの育ちに本当に必要な遊び・活動・行事のあり方を目の前の子どもの姿から考える	子どもの姿や興味関心から遊びや活動、行事について保育者間で考える時間を増やした。その中で「育ち」に注目して考えられたことは行事の意味を考えるうえで一つの指標となっていた。ただ、育ちのキーワードの意味するところについての共通理解は図られておらず、課題として残っている。
③保護者とも保育者間でも子どもやクラスの育ちや活動の過程が共通認識できる	前述の「あゆみ」やHPでの発信は今年度も続けているが、保育者の記録としての側面と保護者への発信の側面の折り合いのつけ方が難しい。そんな中で伝わり方にも濃淡があるように感じられるので双方向性のある方

方法を考える	法を模索して行きたいと思う。
--------	----------------

#### 4、令和4年度の目標や計画の総合的な評価

子どもたちは入園進級当初、環境の変化にかなり戸惑いを見せていたが、丁寧に関わることで少しずつ自らもの・こと・ひとに関わろうとする姿が見られるようになった。保育者間では子どもについて日常的に、あるいは場を設定して話す時間は増えてきており、保育の記録を次の保育の手立てや保護者への発信に繋げていこうという取り組みも始まっている。しかし、子どもたちの姿が変わりつつあることを実感する中で、遊びの追究以前に「主体性とは?」「自律とは?」といった言葉の深掘りや共通理解が保育者間での必要性を感じている。子どもたちの遊びの本当のところを見取るための方法や記録と発信の両立、園をオープンにして園の保育の理解を図るしくみ作りにさらに取り組んでいきたい。

#### 5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
①子どもの今の姿や育ちを次の保育の手立てや育ちに繋げる仕組みを考える	その日の保育や子どもの記録から次の保育や育ちに繋げられる記録の方法や内容を実践と振り返りを繰り返す中で模索する
②何気なく使っている言葉（育ちのキーワードなど）の本当に意味するところを保育者間で共通理解を図る	子どもの姿や育ちを話したり書いたりするときに、「この言葉にまとめれば安心」と言葉だけが独り歩きするようなことなく、日々の保育実践の中で見られる子どもの心の動きに注目し、その言葉の意味を掘り下げ、共通理解が図れるような話し合いや語り合いの場を設ける
③参観や行事に限らず双方向的に保護者と保育者が関われる機会を増やす	参観や懇談、行事に限らず、普段の子どもの遊びを見たり聞いたりしながら園のことをより身近に感じて共に活動してみようを思える場面や人材を増やす

#### 6、学校関係者の評価

特に指摘すべき点はなく、妥当であると認められる。